

松山市地域振興構想(案)

松山市

目 次

第1章 はじめに

1 松山市地域振興構想とは -----	2
1-1 構想策定の背景・目的 -----	2
1-2 『坂の上の雲』のまちづくりとは -----	2
1-3 『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想とは -----	2
1-4 構想の構成 -----	4
1-5 構想の進行管理 -----	6
2 構想の策定に向けて -----	7

第2章 地域振興の理念(全体構想)

1 時代の潮流と市民の意向 -----	10
1-1 少子高齢化の加速や地域コミュニティの縮小の加速 -----	10
1-2 松山市市民意識調査から見る市民の意向 -----	13
2 各地域住民や若者が考える理想の地域 -----	15
2-1 地域ヒアリングで見られた賑わいの考え方・意向 -----	15
2-2 地区住民アンケート結果からみた地域が賑わう姿 -----	16
2-3 高校生ワークショップでの地域の課題や取組のアイデア -----	17
3 地域振興で大事にすること -----	18
3-1 市内全地域に共通する地域振興の理念 -----	18
3-2 地域振興の理念に基づく行動指針 -----	19

第3章 地域別構想

松山市地域振興構想

第1章 はじめに

1 松山市地域振興構想とは

1-1 構想策定の背景・目的

松山市は、司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』に描かれたメッセージを基本理念とした「小説を活かしたまちづくり」に取り組んでいます。

また、平成12年3月から『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想を掲げ、松山城周辺のセンターゾーン及び6つのサブセンターゾーンを設定し、これらの各地域(ゾーン)の特色をいかした回遊性の高いまちづくりを推進してきました。

特に、「忽那(くつな)諸島」「風早(かざはや)(北条)」「三津浜」では、地域振興の構想や計画をそれぞれ策定し、行政と地域が協働して重点的な施策を実施してきたほか、「松山市地域におけるまちづくり基本構想」の基本理念である『私たちのまちは私たちの手で』に基づき、まちづくり協議会などを中心とした住民主体のまちづくりを推進してきました。

こうした取組の開始から一定期間が経過したことから、昨今の社会情勢の変化や、地域まちづくりのニーズの多様化等を踏まえ、各地域の特性や課題を見つめなおし、今後のまちづくりの方向性を示した「松山市地域振興構想」を策定しました。

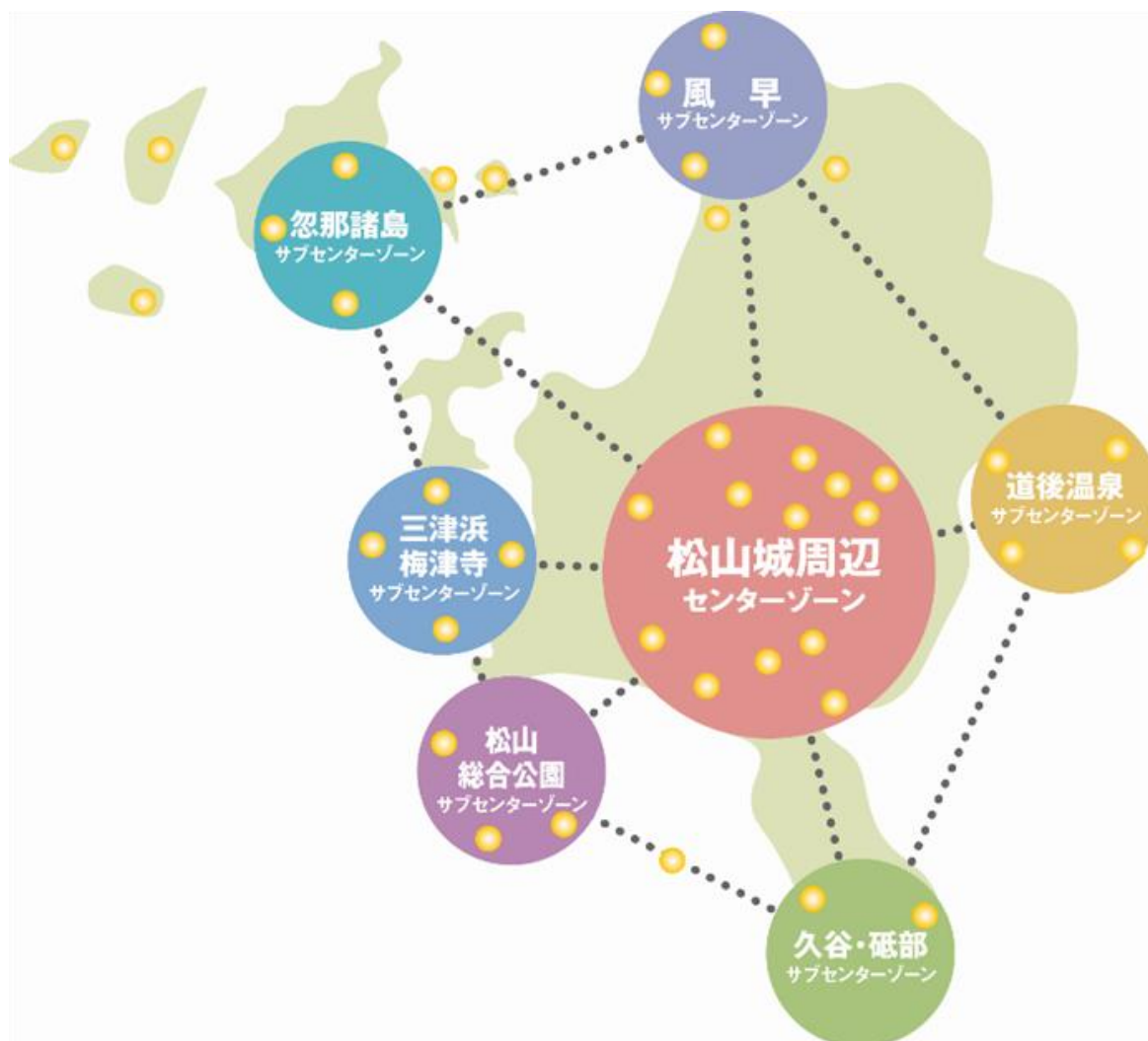
今後は、この構想に基づき、各地域が一体となって更なる地域の賑わいと持続的な発展をめざしていきます。

1-2 『坂の上の雲』のまちづくりとは

小説『坂の上の雲』の3人の主人公(秋山好古・秋山真之・正岡子規)が抱いた高い志、ひたむきな努力と夢や希望を現代に生きる私たちへのメッセージとして、まちづくりに取り入れたのが、『坂の上の雲』のまちづくりです。

単に新しい

図表1 フィールドミュージアムのゾーン区分と特徴



センターゾーン	中心市街地。交通と観光の拠点で、坂の上の雲ミュージアムを中心に松山城、秋山兄弟生誕地、子規堂など、小説ゆかりの史跡・施設が多く存在します。
サブセンターゾーン	道後温泉、松山総合公園、三津浜・梅津寺、久谷・砥部、風早、忽那諸島の6つの地域を設定し、固有の地域資源をいかしたまちづくりを進めています。
● サテライト	小説ゆかりの地をはじめとした松山市内各所の地域資源で構成。センターゾーン、サブセンターゾーンを結ぶ役割を持ち、ネットワークと回遊性の機能を高めています。

また、図表1に掲げるゾーンを図表2のとおり分類し、第3章地域別構想では、前述した「忽那諸島」「風早」「三津浜」に「久谷」を加えた4地域について、これまでの取組を検証しつつ、それぞれ10年後にめざすまちの姿や、実現に向けた地域振興の方針を示します。

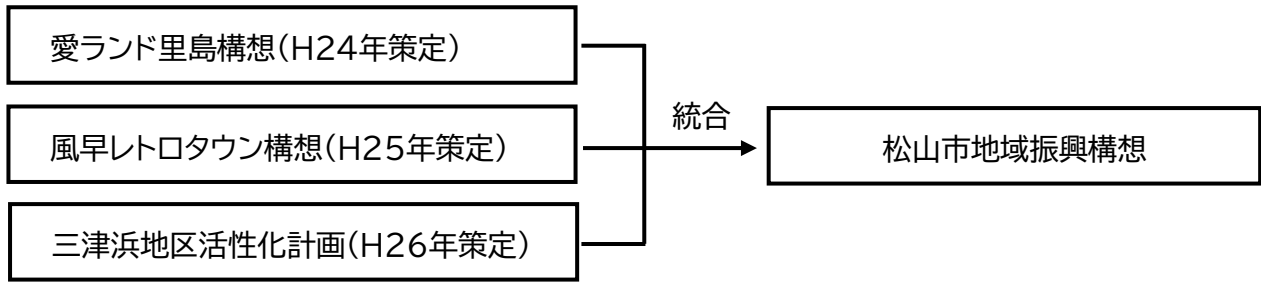
図表2 フィールドミュージアム構想のゾーンの位置付けについて

ゾーン	位置付け
●松山城周辺	まちづくりの中核施設である坂の上の雲ミュージアムのほか、主人公たちゆかりの地や史跡なども数多く残されているフィールドミュージアムの中心地として、様々な都市機能及び地域資源の集積機能を有するとともに、各サブセンターゾーンへの回遊を促進する役割を担う。
●道後温泉 ●松山総合公園	市内外から人を集めるほか、市民の憩いの場としての機能を有する施設を拠点に、市の魅力発信や他地域への回遊を促進するなど、地域振興の拠点としての役割を推進する。
●忽那諸島 ●風早 ●三津浜・梅津寺 ●久谷・砥部	地域資源や特色をいかした地域振興を住民が主体となって推進することで、魅力の向上、地域資源の磨き上げの実現、賑わい・活力を創出する。

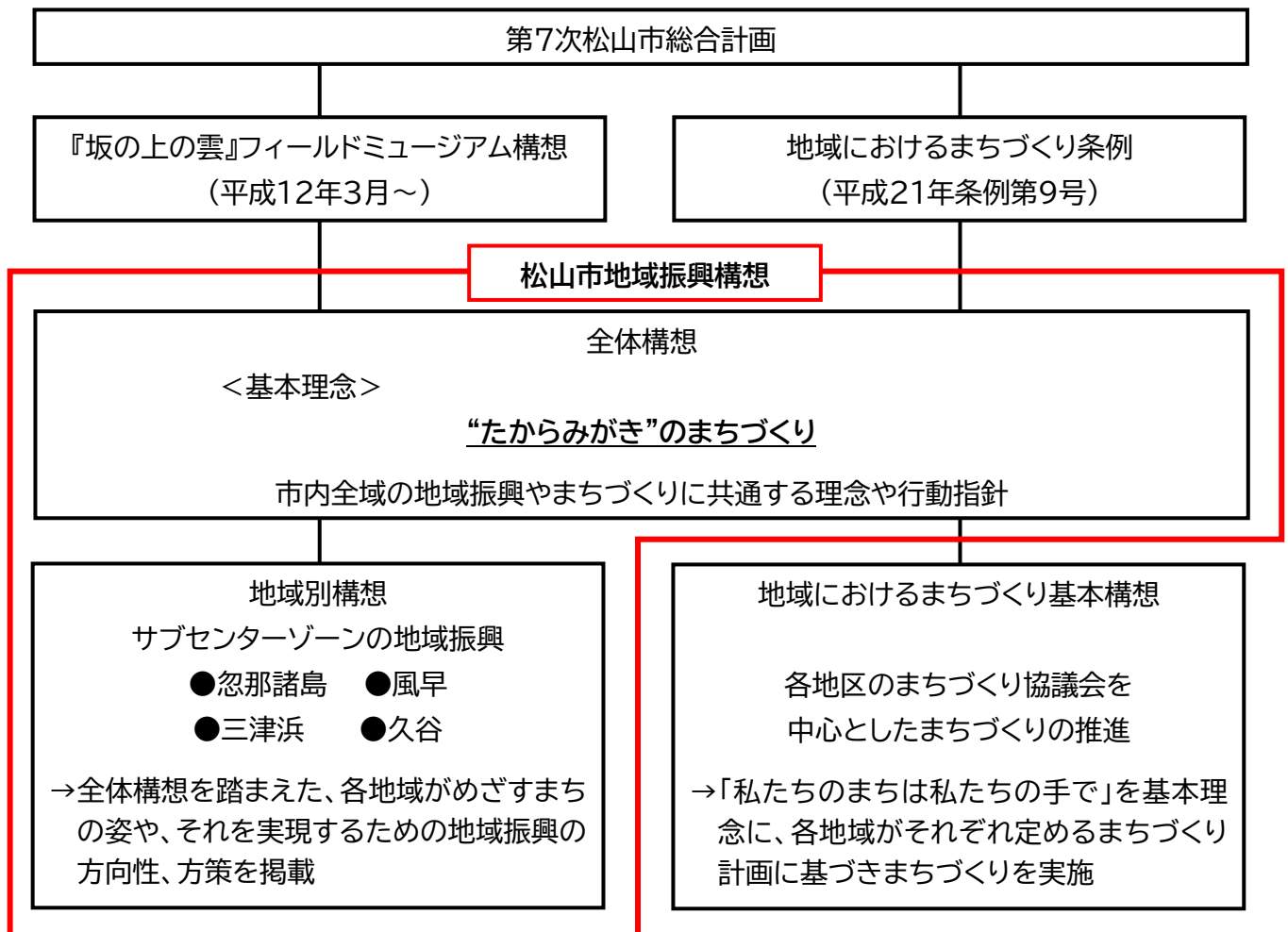
※松山市地域振興構想では、図表2のゾーンのうち、「三津浜・梅津寺」は、前身の三津浜地区活性化計画で対象としていた「三津浜地区」を中心に、周囲も広く含めたゾーンとして「三津浜」と表現するほか、行政区域をまたがる「久谷・砥部」は、広域的なエリアとして、地域の概要や資源等を整理した上で、主に「久谷」を対象として、それぞれまちづくりの方向性を示します。

1-4 構想の構成

図表3 各ゾーンの構想等の統合について



図表4 構想の体系



1-5 構想の進行管理

忽那諸島・風早・三津浜・久谷の各地域が掲げる「めざすまちの姿」を達成するためには、地域と市が行う取組それぞれを整理して実行していく必要があります。

そこで、第3章地域別構想に位置付ける各地域の「今後のまちづくりの方向性」を踏まえ、今後3年間で行う取組を整理した実施計画を4つの地域ごとに作成します。

この実施計画に位置付けた取組は、成果や課題を振り返ったうえで、翌年度以降につなげるなど、適切な進行管理を行います。

また、各地区のまちづくり協議会が集まり、活動紹介やまちづくり協議会の交流を行う「地域力パワーアップ大会」などの場を活用し、地域づくりの情報やノウハウの共有、まちづくり協議会同士の連携推進などにつなげていきます。

2 構想の策定に向けて

本構想は、住民を主体としたまちづくりを展開し、地域の賑わいや活力を創出していくためのものであるため、地域住民へのヒアリングやアンケートはもちろん、市内の高校に通う生徒や公募市民へのワークショップなど声を聴く場を新たに創出しながら、各地域の魅力や課題、今後進めるべきまちづくりの方向性等について、様々な意見をいただきました。

図表6 構想策定に向けた市民参加の取組(意見の聴取)

松山市地域振興構想策定懇話会



[実施時期] 令和5年9月～令和6年●月

[実施回数] 計●回 **[構成員数]** 12名

外部有識者を始め、地域の代表者、公募市民(大学生)などで構成する松山市地域振興構想策定懇話会を開催。地域の特性や課題をはじめ、今後地域で取り組んでいくべき事項など、松山市地域振興構想の策定に向けたご意見をいただきました。

まちづくりワークショップ (地域ヒアリング)



高校生ワークショップ



【開催日】令和6年3月17日

【参加者数】37名

市内の高校に通う生徒を対象に、松山市が進める『坂の上の雲』のまちづくりについての講義や、坂の上の雲ミュージアムでのフィールドワークを実施。地域の課題やそれを解決するための取組、高校生として関わることなどのアイデアをいただきました。

※詳細はP17・第3章参照

地域の魅力発信！ワークショップ



【実施時期】令和6年8月～9月

【実施回数】2回 【延べ参加者数】42名

公募市民を対象に、「地域の魅力を発信し、特色あるまちづくりを周知するための方法の検討」をテーマにしたワークショップを実施。地域の魅力やまちづくりに関心を持ってもらうために必要な取組や、地域振興構想をまちづくりに活用してもらえるような冊子とするための方法などを話し合っていました。

松山市地域振興構想

第2章 地域振興の理念 (全体構想)

1 時代の潮流と市民の意向

1-1 少子高齢化の加速や地域コミュニティの縮小の加速

日本の少子高齢化は、団塊の世代及び団塊ジュニア世代の高齢化に加え、東京一極集中による地方からの若年層の流出と未婚化・晩婚化・晩産化によって、更に加速すると見込まれています。

本市でも全国の地方都市と同様に、若い世代の転出超過が続いており、少子化の進行と合わせて、総人口に占める生産年齢人口の割合も減少しています。また、全国的に地域の行事等への参画意識や助け合いの意識が低くなるなど、コミュニティの希薄化も進んでおり、地域活動等での担い手不足が懸念されています。

このような中、近年自然災害が激甚化・頻発化し、今後南海トラフ巨大地震の発生も危惧される中、広域的な災害が発生した場合の公助の限界が懸念されています。自助・共助を行える体制整備を進めるとともに、災害発生時に円滑な避難所運営などが行えるよう、日ごろから避難訓練を行うなど、地域全体で防災力を高める必要があります。

さらに、コロナ禍によって日常化したオンライン申請やウェブ会議等のデジタル技術は、地域コミュニティでも活用できるものであり、今後は、地域のまちづくり活動でもデジタル化への対応は欠かせません。

このように、地域に求められる役割が増加する一方で、地域のまちづくりを担う人材が不足することが懸念されることから、持続可能な地域コミュニティの形成を推進していくことが求められます。

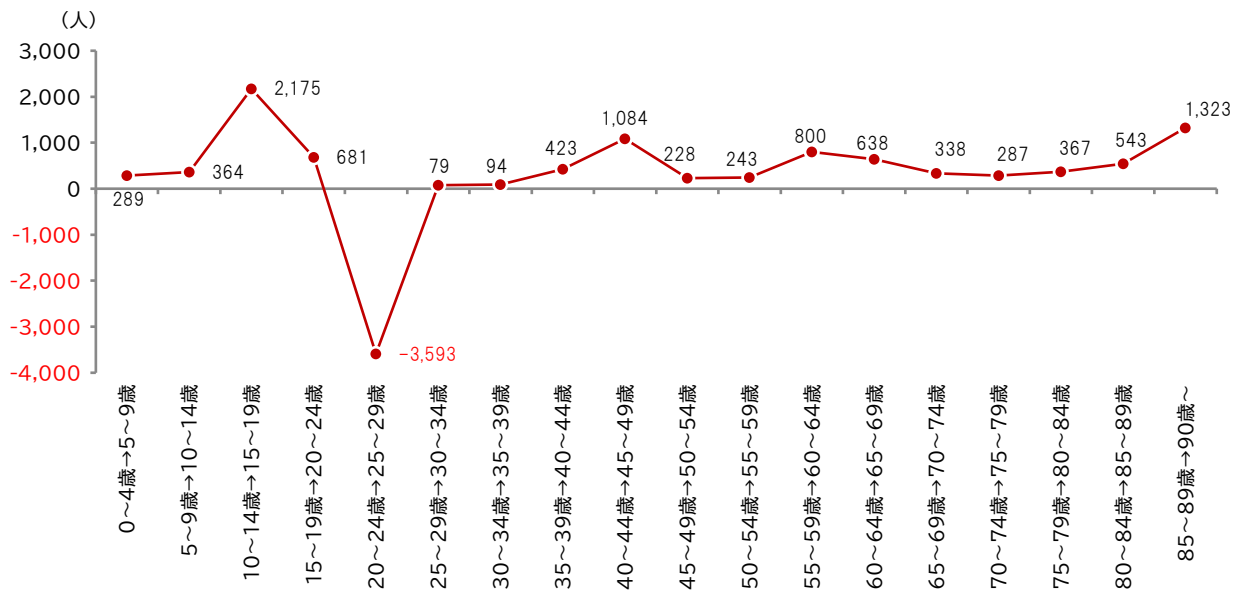
図表7 日本の人口推移

図表8 松山市の人口推移

第7次松山市総合計画の序論もしくは基本計画に掲載しているグラフを追加する予定

出典:

図表9 松山市の年齢階級別純移動数(2015年→2020年)

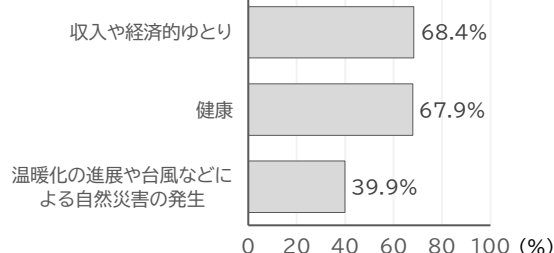


図表10 地域での暮らしや地域との付き合いの意識

将来の暮らしや、地域の生活環境に関して、収入や経済的なゆとりのほか、
自然災害の発生や地域の担い手の減少に対しての不安が大きい

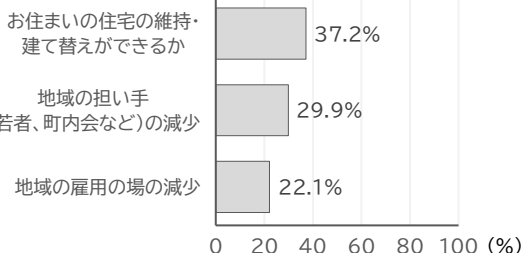
【将来の暮らしに対する不安なこと】

【回答数:551】



【地域における将来の生活環境に対する不安なこと】

【回答数:551】



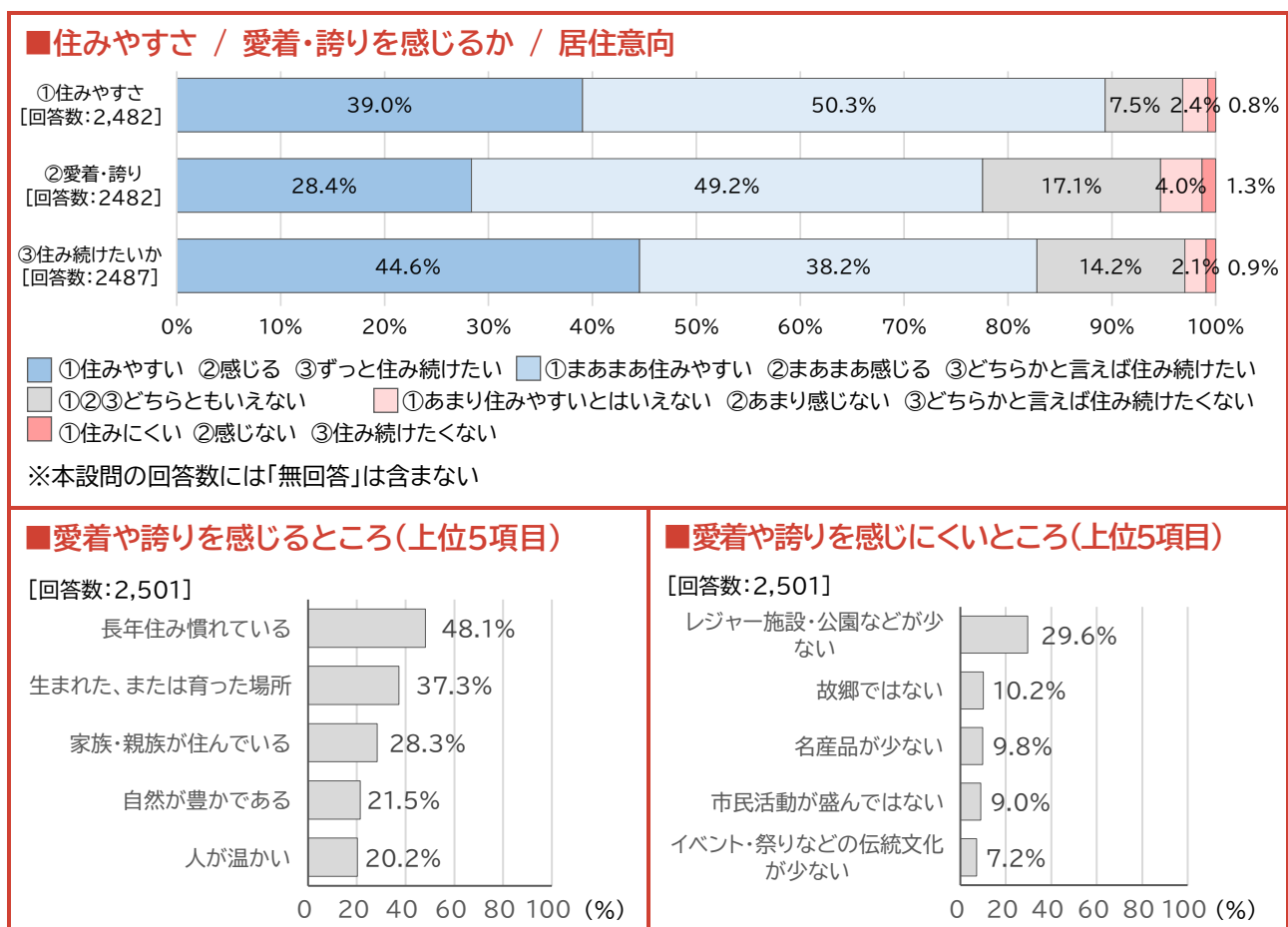
1-2 松山市市民意識調査から見る市民の意向

本市が令和4年度に実施した「第7次松山市総合計画の策定に向けた市民意識調査」では、「松山市のどのようなところに愛着や誇りを感じにくいのか」という問いに対し、「市民活動が盛んではない」「イベント・祭りなどの伝統文化が少ない」を選択した割合が上位となっています。

前述したように、このまま少子高齢化が進展し、地域活動等での担い手不足が加速すると、より地域でのまちづくり活動が沈静化し、地域での伝統文化の伝承が困難となり、ますます愛着や誇りを感じにくくなってしまうことが予想されます。一方で、「まちづくり活動に参加したいと思うか」という問いで「参加したい・どちらかといえば参加したい」を選択した人のうち、「まちづくりに参加する上で、課題や支障になること」について、「時間的な余裕がない」に次いで、「地域がどのような活動をしているか分からない」「参加方法が分からない」を選択した割合が高くなっています。

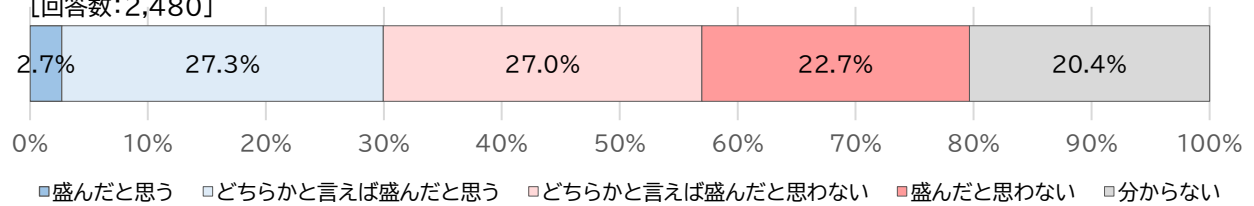
このことから、まちづくり活動に関わりたい意向があるものの、参加する方法が分からないために、参加できていない人が一定数存在することが分かります。そのため、デジタル技術を活用した情報発信など、参加意欲のある人が情報を得られるような仕組みづくりのほか、地域に貢献したいと思う人を快く受け入れる体制の構築が求められます。

図表11 松山市市民意識調査結果の概要



■まちづくりが盛んだと思うか

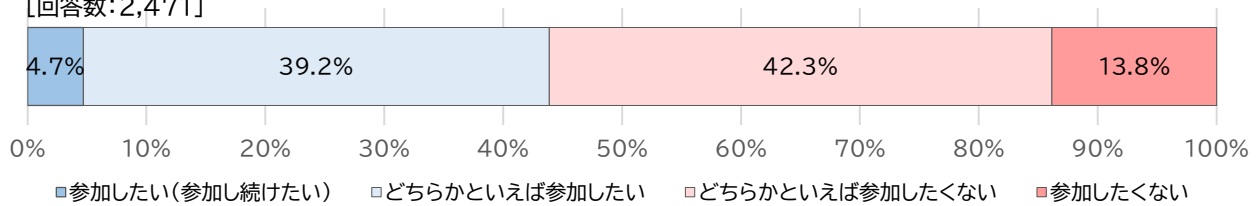
[回答数:2,480]



※本設問の回答数には「無回答」は含まない

■まちづくり活動に参加したいと思うか

[回答数:2,471]



※本設問の回答数には「無回答」は含まない

2 各地域住民や若者が考える理想の地域

2-1 地域ヒアリングで見られた賑わいの考え方・意向

地域が賑わう姿について、4つの地域でヒアリングを実施しました。それによると、地域内外で人が集まることをはじめ、こどもや若者の増加、こども・若者が住まう、まちづくり活動に関わることでの賑わいを求める声が多くなっています。

また、若者や移住者、地域外等、多様なつながりや交流を育むことで、地域の行事に参加する人や地域に帰ってくる人を増やすとともに、若者・子育て世帯が住みたくなるような魅力を高め、地域の活力を維持・増進していくことが重要視されています。

図表12 「地域が賑わう」とは何か(地域ヒアリングでの主な意見)

地域	地域が賑わうとは何か (上位3位)	主な意見
■ 忽那諸島 	[回答数:35] 地域内外で人が集まる 10 (28.6%) 人口の増加 6 (17.1%) 人とのつながり、コミュニティがある 5 (14.3%)	○島のこ

2-2 地区住民アンケート結果からみた地域が賑わう姿

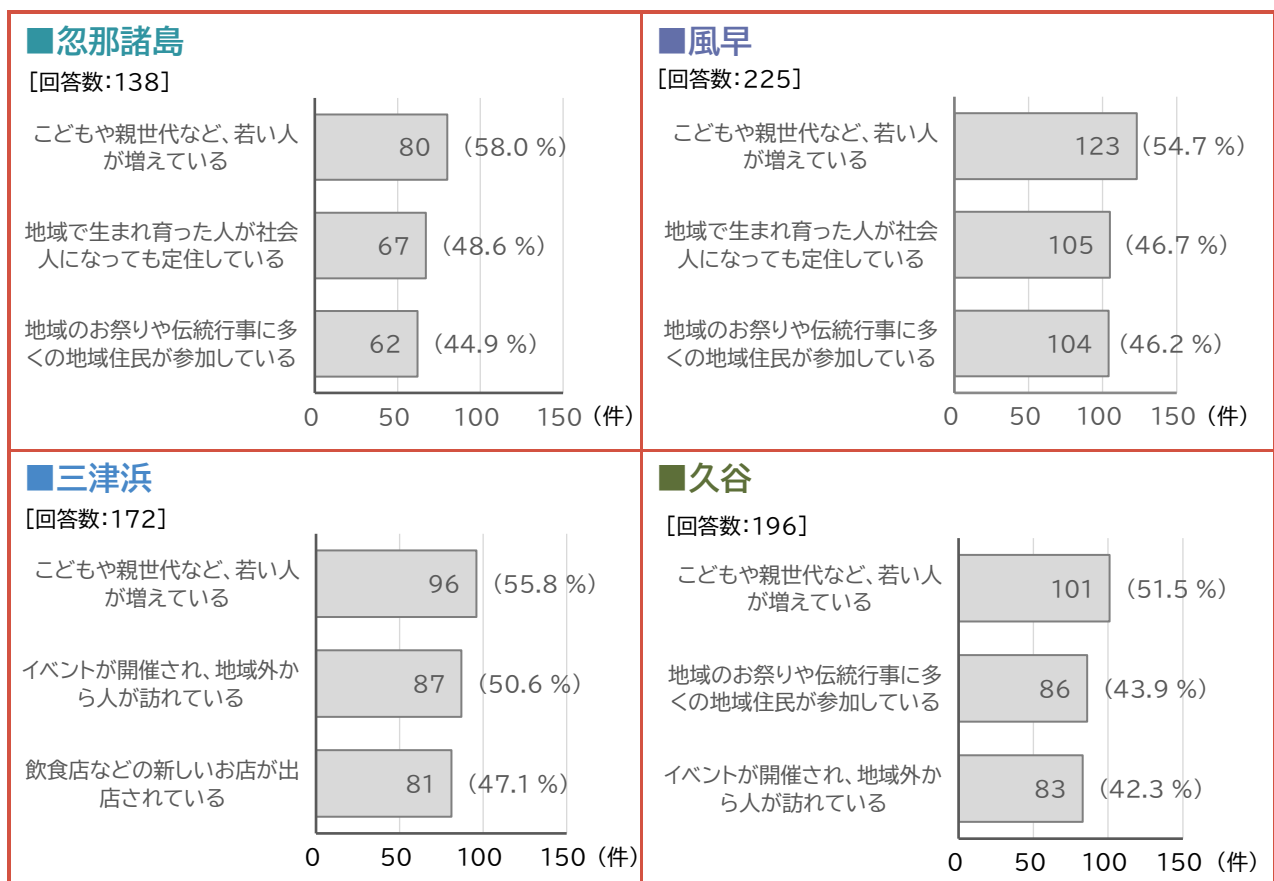
忽那諸島・風早・三津浜・久谷の4地域に在住する18歳以上の住民2,000人を対象に、これまで行ってきた地域振興の取組の検証及び今後の地域のまちづくりについてのアンケート調査を実施しました。

それによると、地域が賑わう姿として、いずれの地域でも「こどもや親世代など、若い人が増えている」ことが、特に求められていることが分かります。

また、「地域で生まれ育った人が社会人になっても定住している」や「地域のお祭りや伝統行事に多くの地域住民が参加している」といった、地域への愛着を持って生活する・関わることのほか、「イベントが開催され、地域外から人が訪れている」といった、地域外との交流によって賑わいを創出することも重要視されています。

総じて、地域内外のコミュニティが活性化することで、こどもや親世代などの若い人にも関心を持ってもらえる地域となることが求められています。

図表13 「地域が賑わう」とは何か(地区住民アンケート結果:上位3位)



2-3 高校生ワークショップでの地域の課題や取組のアイデア

高校生から見た各地域の課題・取組は、各地域の資源(古民家や地域の畑、海や山などの自然、歴史など)をいかして、地域の課題を解決していくべきというアイデアが多くみられました。また、こうした地域の魅力や特性が知られていないことが課題であり、情報発信を通じて地域の賑わいづくりをしていくというアイデアが多くみられました。

図表14 高校生ワークショップでの主な意見

■ 忽那諸島に対する課題・アイデア		
	【主な課題】	【主な取組のアイデア】
	○地域の魅力の普及 ○海などの環境維持 ○生活環境・基盤の充実 ○災害時の安全性の確保	○畑の貸し出し ○一日島民体験や住みたいと思わせる取組 ○海を守る活動を観光にする ○移住体験施設の災害時利用
■ 風早に対する課題・アイデア		

3 地域振興で大事にすること

3-1 市内全地域に共通する地域振興の理念

< 基本理念 >

“たからみがき”のまちづくり

松山市は、平成12年3月から『坂の上の雲』フィールドミュージアム構想を掲げ、地域の特色をいかした物語のある回遊性の高いまちの実現をめざしています。

そして、これまで、フィールドミュージアム構想のサブセンターゾーンである忽那諸島、風早、三津浜では、それぞれ構想や計画を策定し、地域固有の資源をいかしながら、魅力ある・特色あるまちづくりを進めてきました。

その結果、忽那諸島では島が持つ魅力をいかした体験メニューの提供や、お試し移住施設の整備などにより、交流人口や関係人口、定住人口の創出につながりました。風早では、鹿島の整備や風早の魅力を体感できるイベントを行ったことで、一時期減少していた鹿島への渡船客が増加したほか、北条駅前などを中心に賑わいが生まれました。三津浜では、古民家活用や地域に根付く食文化のブランド化を行ったことで、全国的に「三津浜焼き」が認知されるとともに、新規店舗が出店し、多くの方が訪れるようになりました。

また、市内各地域のまちづくりでは、まちづくり協議会の設立や運営に関する支援を行い、住民が主役のまちづくりを進めてきたほか、地域で守り伝えられてきた歴史的・文化的な資源を後世へ継承し、活用する取組に対して支援を行う「地域の宝みがきサポート事業」などを通して、住民主体の地域資源の利

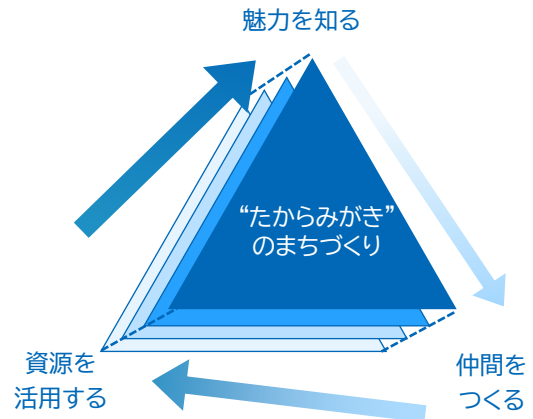
3-2 地域振興の理念に基づく行動指針

行動指針の考え方

「“たからみがき”のまちづくり」を地域共通の基本理念とし、その行動指針として3つを掲げます。

具体的には、地域の魅力や価値を地域内外に共有・発信して地域の魅力を地域住民が知る・地域外の人にも知ってもらう行動、まちづくりを一緒に行う仲間をつくる行動、まちづくりの輪が広がることで、地域固有の資源を活用した更なるまちづくりへの行動です。

これにより、地域独自の魅力を高めていくといった、良好なサイクルを構築していきます。



1. 魅力を知る

地域ヒアリングや地区住民アンケートで、「地域で育った子どもが大人になっても

松山市地域振興構想

第3章 地域別構想

1 忽那諸島・風早・三津浜・久谷

1-1 忽那諸島

地域の概況

有人島9島を含む30以上の島々からなる忽那(くつな)諸島は、温暖な瀬戸内海の気候条件をいかした果樹農業や豊富な魚介類が生息する漁場での漁業が盛んで、まつやま農林水産物ブランド産品も多く生産しています。

透きとおるきれいな青い海と多島美の雄大な風景が広がる中島で昭和61年から開催されている「トライアスロン中島大会」は夏の風物詩で、島外とのつながりの場となっています。

また、興居島の「島四国」や「船踊り」、中島の「道具踊り」や「やっこ振り」、津和地島の「だんじり祭り」、怒和島の「獅子舞」など個性豊かな独自の伝統や文化が伝承されています。

地域の特長

海水浴やキャンプ、マリレジャーなどが楽しめる施設のほか、地域で組織するまつやま里島ツーリズム連絡協議会では様々な体験メニューが提供されています。また、リニューアルしたほしふるテラス姫ヶ浜などの宿泊

特徴的な取組

1. 里島めぐり

(活動主体:まつやま里島ツーリズム連絡協議会)

「松山島博覧会」で生まれた体験メニュー等を継続して充実させるとともに、「体験」「文化」「食」等を通じた交流を促進することで、地域産業の振興を図り、地域を活性化するために協議会が設立されました。

「里島めぐり」では島の地域資源を活用した体験として、各団体が実施する農業体験や自然・レジャー体験、食文化体験、文化・創作体験など、島の魅力や暮らしを体感できるメニューを紹介しています。

島の観光宣伝大使 しまぼう



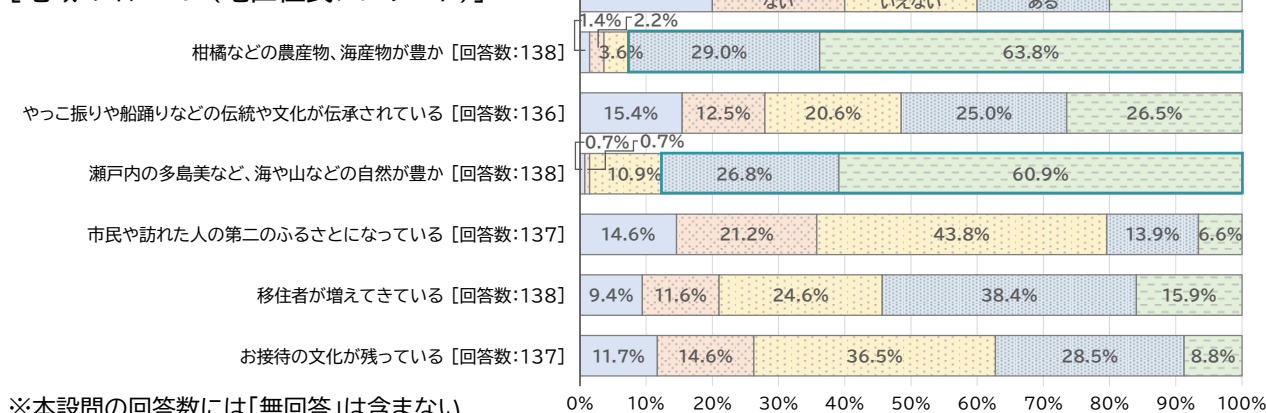
[

■必要なまちづくり

島の産業維持や暮らしをより高めていくまちづくりが求められる

住民意向

【地域のイメージ(地区住民アンケート)】



【めざすまちの姿】

島びとが輝き、島の宝を未来につなぐ、笑顔になれる里の島

【実現に向けた方針】

忽那諸島は、柑橘や海産物、地域資源をいかしたアクティビティなどに代表されるような、穏やかな気候に包まれ、美しい瀬戸内海と大小様々な多島美が織りなす壮大な自然が生活の基盤となる地域です。島民や地域などと行政が協働し、この強みをいかしていくことで、魅力や活力のあるまちづくりを推進し、島に住む人にとって暮らしやすい島となるよう、また、島を訪れる人にとって「第二のふるさと」と思われるような地域を実現します。

1. 里島の特性をいかした産業の振興や魅力の創出

柑橘や海産物、歴史や文化などの地域資源をいかした産業の魅力を高め、地域の活性化や交流人口等の拡大につなげるために、島の産業を支え、魅力を発信する取組の支援や人材の育成などに取り組みます。

2. 安全・安心な生活を守り、暮らしやすい里島を実現する

<

1-2 風早

地域の概況

松山市北部に位置する風早(北条)地域は、中世伊予の豪族である河野氏の氏寺・発祥の地である「善応寺」や河野氏の祈願寺である「高縄寺」のほか、河野水軍の戦勝祈願である「鹿島の櫓練り」など、河野氏ゆかりの歴史や文化を有しています。また、キャンプ場や海水浴が楽しめるビーチがある鹿島や、ブナの原生林が広がる高縄山など豊かな自然に恵まれた地域です。

風早地域には、市の無形文化財に指定されている「伊予万歳」をはじめ、獅子舞保存会が8団体あるなど、伝統芸能が脈々と伝承されています。また、郷土料理の「北条鯛めし」はブランド化

特徴的な取組

1. 地域資源を活用したイベント開催

(活動主体: 風早まちづくりネットワーク、まちづくり協議会など)

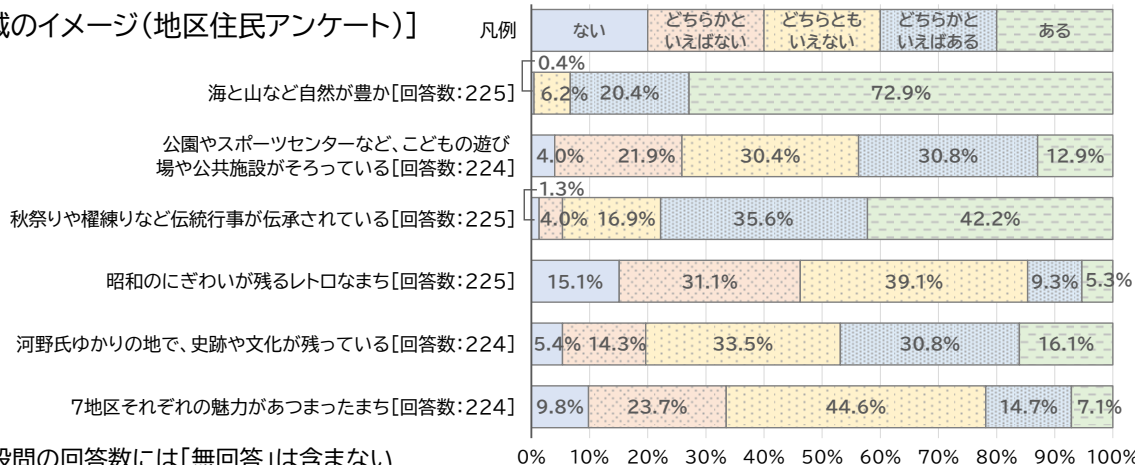
北条地域では、地域の活性化や地域住民の交流の場づくりなどを目的として、地域資源を活用したイベント「風早にぎわいレトロまつり」や「かざはや楽市」などが開催されています。イベントでは、地域の学校や団体、店舗等と連携し、

■必要なまちづくり

地域外からの来訪・集客・呼び込みなどによる賑わいの創出が必要

住民意向

〔地域のイメージ(地区住民アンケート)〕



【めざすまちの姿】

豊かな自然や歴史文化が調和し、ここにしかない幸せを感じられるまち

【実現に向けた方針】

地域の住民が世代を超えたつながりやコミュニティを築き、地域の宝である自然や歴史・文化をいかした取組により交流人口の拡大につなげ、まちづくりの機運を醸成していく。

中世伊予の豪族である河野氏ゆかりの史跡や伝統行事など、地域の宝である歴史や文化を継承し、「時間のつなが

1-3 三津浜

地域の概況

松山市西部に位置する三津浜地域は、江戸時代に松山藩の御船手組(船奉行所)が置かれ、漁業・商業のまちとして栄えてきた地域で、戦災を免れたこともあり、かつての港町の面影を残した古い町並みが続いています。また、港町ならではの豊かな魚食文化が育まれているほか、大正時代の一銭洋食までさかのぼる三津浜焼きなど、独自の食文化が形成されています。

</

特徴的な取組

1. 三津ハマル(町家バンク・マッチング、リノベーションなど)

(活動主体:三津浜地区にぎわい創出

■必要なまちづくり

住民・来訪者・商業者等、多様な人々にとって魅力的な環境づくりが求められる

住民意向

〔地域のイメージ(地区住民アンケート)〕 凡例

【めざすまちの姿】

『住んで訪れて楽しいまち三津浜』人と人が交流し港町の風情が息づくまち

【実現に向けた方針】

古い町並みなどかつて賑わった港町の風情が残る歴史や文化を継承するとともに、三津の渡しなど

1-4 久谷

地域の概況

松山市南部に位置する田園地帯である久谷地域のうち、荏原地区には、国

特徴的な取組

■必要なまちづくり

地域内外の交流のほか、移住促進、魅力のPRなどによる地域の活性化が求められている

【めざすまちの姿】

里山の風景のなか、人と人が語らいお接待の心が広がるまち

松山市地域振興構想

資料編

松山市地域振興構想策定懇話

懇話会メンバー名簿

